

平成29年度
志學館大学学生に対する
生活調査の結果

平成29年9月

志學館大学学務委員会
志學館大学IR室

1. 趣旨

学生の生活実態、学修行動、大学の施設等への満足度は、教育の質の向上を図るための諸施策を企画・実施するために必須の基本情報である。志學館大学では、これらの情報を収集するために、学務委員が中心となって、学生に対する電子的アンケート調査を実施した。

2. 資料

全学学生（大学院学生を含む。以下、同じ。）1,249人を対象に、ユニバーサルパスポートシステムを通じて、以下のカテゴリーに分けられる28件の設問に答えて貰った。

- (1) 学生の属性に関する情報
- (2) 住居・通学手段等
- (3) 学修行動
- (4) 本学の施設への満足度
- (5) 生活困窮度とアルバイト
- (6) 心身の健康度
- (7) 大学生活全般への取り組みと満足度

平成29年8月22日から9月1月までの間に、計417人（男子200人、女子217人）の学生から回答があった。学年別では、低学

年ほど回答数が多かったが、大きな差ではなかった。学科等別でも、回答率は学生現員数比から大きく外れるものではなかった。これらのことから、調査に影響を与えるほどの資料の偏りはなかったと判断した（表1）。

表1 調査で得られた資料数

学年	人数	学科等	人数
1年生	122	心理臨床	183
2年生	114	人間文化	81
3年生	94	法ビジネス	39
4年生	77	法律	105
5年目以上	1	大学院	9
大学院生	9	合計	417
合計	417		

3. 分析結果

住居及び通学手段等： 学生の住居は、自宅（親族と同居）が293人（回答総数の70%）と最も多く、次にアパート・マンションが多かった。寮生は3%と少なかった。通学時間（家から大学までの片道所要時間）の長短はさまざまで、概ね90分以下でばらついていて、最短では3分であったが、一方120分を超える者もいた。

表2 住居及び通学時間

回答	回答数	比率	回答	回答数	比率
自宅	293	0.70	15分以下	129	0.31
親類知人	2	0.00	30分以下	102	0.24
アパート・マンション	97	0.23	60分以下	110	0.26
寮	11	0.03	90分以下	54	0.13
下宿	1	0.00	120分以下	18	0.04
その他	3	0.01	120分を超える	4	0.01
合計	407	1.00	合計	417	1.00

通学手段については、複数を利用している場合はすべてを答えて貰った。個人的な交通手段（自転車、バイク、自家用車（送迎を含む））を用いている者は合計210人（50%）で、公共交通手段（JR、市電、バス、フェリー）を利用している者は合計274人（66%）であった。少数ながら、両者を併用している場合があるものとみられる。JRとフェリーを合わせて137人（33%）であるのは、通学時間が長い者が少なくない事実と対応し、本学学生の通学圏が極めて広いことを示している。

なお、既述のように通学時間が数分という者がいることから、徒歩のみでの通学者がいることは確かであるが、その数は分からない。一方、徒歩との回答が219人と全回答者数よりかなり少なかったことから、他の交通手段を用いている者の中に、徒歩を交通手段の一部に含めなかった者が相当数いるものと考えられる。

学修行動等： 1週間あたりの平均登校日数（今年7月）は、5日（53%）が最も多く、中には6日・7日と土日も大学に来ている者もいた。4日以上大学に来ている者の合計は83%で、出席状況は概して悪くはないと言える。ただし、本アンケートに答えていない学生もいることから、この分析結果にはある程度の留保が必要であろう。

大学に来た時に大学に留まっていた時間は1時間未満から8時間以上まで大きくばらついていたが、緩やかなモードは3時間から7時間あたりにあり、平均値は約5時間程度であった（回答が最初から階級分けされたものであったので、近似値である）。この値は、本学学生は一度登校すると、大学に長くどまる傾向にあることを示していると判断できる。これは、通学時間が長いこと、本学周辺にキャンパスを離れる要因となる学生街等がないこと、サークル活動が学生生活の大きな部分を占めている学生が多いことなどが要因なのではないかと考える。

表3 通学手段（移動手段すべて）

回答	回答数	比率
徒歩	219	0.53
自転車	61	0.15
バイク	91	0.22
自家用車	33	0.08
自家用車（送迎）	25	0.06
JR	129	0.31
市電	56	0.13
バス	81	0.19
フェリー	8	0.02
その他	5	0.01
合計	708	1.00

表4 週当たり通学日数及び日当たり在学時間

通学日数／週	回答数	比率	在学時間／日	回答数	比率
0日	1	0.00	1時間未満	4	0.01
1日	15	0.04	～2時間未満	15	0.04
2日	21	0.05	～3時間未満	36	0.09
3日	32	0.08	～4時間未満	75	0.18
4日	72	0.17	～5時間未満	76	0.18
5日	219	0.53	～6時間未満	70	0.17
6日	26	0.06	～7時間未満	67	0.16
7日	31	0.07	～8時間未満	35	0.08
合計	417	1.00	8時間以上	38	0.09
			合計	416	1.00

平日（平成29年度前期）の1日の平均学修時間は、1時間未満、1時間以上2時間未満が多く、両者に「まったくしなかった」者を加えて345人（83%）であった。平均値は1.2時間程度であった。

同時期の週末の1日の学修時間は、1時間未満がもっとも多く、「まったくしなかった」から2時間未満までの3階級で353人（85%）と、大半を占めた。平均値は1.1時間程度であった。

表5 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間

回答	回答数	比率	回答	回答数	比率
まったくしなかった	50	0.12	まったくしなかった	111	0.27
1時間未満	157	0.38	1時間未満	131	0.31
～2時間未満	138	0.33	～2時間未満	111	0.27
～4時間未満	59	0.14	～4時間未満	48	0.12
4時間以上	13	0.03	4時間以上	16	0.04
合計	417	1.00	合計	417	1.00

サークル活動等への参加状況では、加入していない者が138人（33%）であった。参加者の中では、体育系サークル、文科系サークルの参加は相半ばしていて、両者を合わせて284人（68%）が参加し

ていた。その他、学友会役員会、银杏祭実行委員会に参加している者が合わせて17人(4%)いた。これらの結果からは、36人又はそれに近い人数は複数の活動に参加しているとみられる。

ボランティア活動等への参加状況では、現在参加している者が48人(12%)であった。以前に参加したことがある者を含めると235人(40%)であった。まったく経験したことがない者が162人(39%)いた。

サークル等への参加とボランティア活動への参加の重複度は不明であるが、学生が授業科目の履修以外のさまざまな活動を活発に行っていると判断できる。

表6 サークル等への参加状況及びボランティア活動への参加状況

回答	回答数	比率
加入していない	138	0.33
体育系サークル	126	0.30
文化系サークル	158	0.38
学友会役員会	12	0.03
银杏祭実行委員	5	0.01
学外のサークル・団体	6	0.01
その他	8	0.02
合計	453	1.00

回答	回答数	比率
現在、活動している	48	0.12
以前、したことがある	157	0.38
全くしたことがない	162	0.39
わからない・無回答	49	0.12
合計	416	1.00

大学の施設への満足度とニーズ：「大学内での「居場所」はどこですか」と問うたところ、「カフェテリア」が171人(41%)で最も多かった。次いで、「図書館」、「サークル室」が多く、これら合計が167人(41%)であった。カフェテリア、図書館が学内のアメニティ空間としての役割を果たしていることが、浮き彫りになっていると考える。

図書館への満足度を聞いたところ、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて351人(84%)で、満足度は高いと判断できる。不満なところとしては、まず「不満なところはない」とした者が236人(回答者中の57%)であった。残る181人が挙げた不満のうち、「蔵書の種類や冊数」が103件(57%)と多かった。「開館時間」、「貸出しサービス」、「情報の案内の仕方」等のソフト面での不満足は29件(16%)で、多くはなかった。一方、「利用者のマナー」といった、利用者側の問題点の指摘も13件(7%)あった。

表7 大学内での「居場所」

回答	回答数	比率
居場所はない	23	0.06
カフェテリア	171	0.41
図書館	69	0.17
サークル室	53	0.13
本館3階ロビー(学習室)	8	0.02
空いている教室	47	0.11
その他	46	0.11
合計	417	1.00

表8 図書館への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率
非常に満足	103	0.25
どちらかといえば満足	248	0.59
どちらかといえば満足していない	59	0.14
まったく満足していない	7	0.02
合計	417	1.00

回答	回答数	比率
開館時間	16	0.09
蔵書の種類や冊数	103	0.57
貸し出しサービス	4	0.02
情報の案内の仕方	9	0.05
利用者のマナー	13	0.07
その他	36	0.20
合計	181	1.00

コンピュータ室については、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて372人(89%)で、満足度は高いと判断できる。不満な点を具体的に上げて貰ったところ、「不満なところはない」とした者が237人(回答者中の57%)であった。残る180人が挙げた不満のうち、「利用できるパソコンの台数」が76件(42%)と最も多く、「パソコンの処理能力やアプリの不足」と合わせて100件(55%)であった。一方、「利用者のマナー」の問題点の指摘が55件(31%)と極めて多かった。この質問でも、回答は「最も当てはまるものを一つだけ」としたので、不満はやや過小評価されている可能性がある。

表9 コンピュータ室への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率	回答	回答数	比率
非常に満足	156	0.37	パソコンの処理能力やアプリの不足	24	0.13
どちらかといえば満足	216	0.52	利用できるパソコンの台数	76	0.42
どちらかといえば満足していない	43	0.10	サポート体制	8	0.04
まったく満足していない	2	0.00	利用者のマナー	55	0.31
合計	417	1.00	その他	17	0.09
			合計	180	1.00

カフェテリアについては、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて307人(74%)で、不満なところはないとした者が189人(回答者中の45%)であった。残る227人が挙げた不満のうち、「価格」が55件(42%)と最も多く、「メニューの品揃え」、「机や椅子の配置など環境」と合わせて155件(87%)であった。

表10 カフェテリアへの満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率	回答	回答数	比率
非常に満足	113	0.27	味	19	0.11
どちらかといえば満足	194	0.47	価格	55	0.31
どちらかといえば満足していない	83	0.20	営業時間	27	0.15
まったく満足していない	27	0.06	メニューの品揃え	54	0.30
合計	417	1.00	アレルギー情報等の表示	2	0.01
			机や椅子の配置など環境	46	0.26
			利用者のマナー	11	0.06
			その他	13	0.07
			合計	227	1.00

生活困窮度とアルバイト： 金銭的な面で生活の余裕はあるかとの問いに、37人(9%)が「非常に苦労している」と答え、「どちらかと言えば苦労している」と合わせて205人(49%)であった。アルバイト経験の有無では、341人(82%)が経験をしていた。なお、前者の問いは、アルバイトをした結果の状態か、アルバイトをしなければその状態なのかの問いかけが不明確であったので、

表11 生活困窮度とアルバイト経験の有無

回答	回答数	比率	回答	回答数	比率
非常に苦労している	37	0.09	アルバイト経験あり	341	0.82
どちらかと言えば苦労している	168	0.40	なし	75	0.18
どちらかと言えば苦労していない	172	0.41	合計	416	1.00
余裕がありお金で苦労はしていない	40	0.10			
合計	417	1.00			

困窮度とアルバイト経験の有無を論じるのは難しい。

平成29年度前期の期間のアルバイトの頻度を聞いたところ、回答者数は306人で、上記問いでの「経験あり」より相当少なかった。1週間に3～4回程度のアルバイトを行っている者が165人(54%)で最も多く、5回以上行っているものを合わせると189人(62%)であった。

上記の困窮度の質問で「非常に困っている」と答えた37人のうち、25人がこの質問で収入があった(残りの12人は困窮していてもアルバイトはしていない)。一方、8万円を超える収入があった者のうち、「非常に困っている」と答えたものはいなかった。

表12 アルバイトの頻度と月間アルバイト収入

回答	回答数	比率	回答	回答数	比率
不定期/単発アルバイト	39	0.13	1万円以下	32	0.13
1週間に1～2回	78	0.25	2万円以下	31	0.12
1週間に3～4回	165	0.54	4万円以下	78	0.31
1週間に5回以上	24	0.08	8万円以下	100	0.40
合計	306	1.00	8万円を超える	12	0.05
			合計	253	1.00

アルバイトに伴って発生するトラブルについて問うた。アルバイト先とのトラブル経験なしとの回答が284人(87%)であったのに対して、残りの者から77件のトラブルが挙げられた。

「給料の未払いがあった」「サービス残業を強いられる」という悪質なものが16件(22%)であった。「休みを申し出ても休ませてもらえない」、「辞めたくても辞めさせてもらえない」、「無理なシフトを強制されることが多い」等の、悪質度はやや低くても学業に影響を及ぼすようなトラブルが、合計34件(48%)と多かった。

表13 アルバイト上のトラブル

回答	回答数	比率
給料の未払いがあった	8	0.11
休みを申し出ても休ませてもらえない	7	0.10
辞めたくても辞めさせてもらえない	10	0.14
無理なシフトを強制されることが多い	17	0.24
サービス残業を強いられる	8	0.11
その他のトラブル	22	0.31
合計	356	1.00

身体と気持ちの健康度: 平成29年6月から7月までの期間の身体の状態を聞いたところ、

表14 身体と気持ちの健康度

回答(身体)	回答数	比率	回答(気持ち)	回答数	比率
健康で調子が良かった	170	0.41	健康で調子が良かった	139	0.33
まあまあ調子は良かった	194	0.47	まあまあ調子は良かった	184	0.44
少し調子が悪かった	44	0.11	少し調子が悪かった	66	0.16
調子が悪かった	9	0.02	調子が悪かった	27	0.06
合計	417	1.00	合計	416	1.00

「健康で調子が良かった」と「まあまあ調子は良かった」を合わせて364人(88%)であったが、「調子が悪かった」との回答が9人(2%)いた。同じ期間の気持ち・メンタルな面での健康状態では、27人(6%)が「調子が悪かった」と答えた。

「大学内に仲のよい友達はあるか」との問いに、24人(6%)がいないと、31人(7%)が「分からない」

表15 大学内での仲のよい友人の有無

回答	回答数	比率
いる	362	0.87
いない	24	0.06
分からない	31	0.07
合計	417	1.00

と答えた、これらの者は大学生活の中で孤立化している学生である可能性があるので、十分なモニタリングが必要である。

大学生活全般への取り組みと満足度：「大学卒業後の進路を見据えて何らかの準備をしているか」との問いに対し、「一生懸命に取り組んでいる」、「ある程度は取り組んでいる」、「計画があり、現在取り組みつつある」という積極的な回答が合計 272 人(65%)あった。ただし、「準備をする気持ちがない、気持ちになれない」と「分からない」が合わせて 29 人(7%)おり、対処が必要である。

「自分の大学生活全般への満足度」を問うたところ、「大いに満足している」、「やや満足している」を合わせて 240 人(57%)であった。一方、「やや満足していない」、「まったく満足していない」、「分からない」を合わせて、62 人(15%)いた。特に「まったく満足していない」と答えた 20 人には個別の対処が必要であろう。

表 16 大学卒業後の進路を見据えた準備と大学生活全般への満足度

回答	回答数	比率	回答	回答数	比率
一生懸命に取り組んでいる	71	0.17	大いに満足している	60	0.14
ある程度は取り組んでいる	123	0.29	やや満足している	180	0.43
計画があり、現在取り組みつつある	78	0.19	どちらとも言えない	115	0.28
計画はあるが、行動はしていない	54	0.13	やや満足していない	41	0.10
ほとんど何もしていないが、取り組む気持ちはある	61	0.15	まったく満足していない	20	0.05
準備をする気持ちがない、気持ちになれない	12	0.03	分からない	1	0.00
分からない	17	0.04	合計	416	1.00
合計	416	1.00			

4. まとめ

本学の学生は、通学範囲が広く通学時間が極めて長い者が多いことが浮き彫りになった。これは、県外出身者が多く大学周辺のアパート・マンションに居住していることが多いような大学の学生に比べて、学修時間やサークル活動に費やすことができる時間の上で、ハンディキャップになっている可能性がある。

本学学生の登校状況、登校した場合の滞在時間等は概して良いと判定できる。ただし、学修に費やしている時間の点では不十分な学生が多い。学生個人個人の科目履修等の修学状況は別途資料があり、これらをリンクした分析を今後進めていく必要があるだろう。

経済的には、「非常に苦勞している」といった困窮状態にある学生が少なからずいることが改めて浮かび上がった。本学の学生は盛んにアルバイトを行っているが、これと困窮度との関連についてはさらに分析が必要であろう。経済的困窮は中退・除籍の大きな理由の一つであり、就職のための中退がアルバイトと関連していることが少なからずある点を考えると、これらの関連の分析をさらに進めていく必要がある。

施設の点では、今回の調査では図書館、コンピュータ室、カフェテリアについてのみ問うたが、満足度は概して高かったと言える。ただし、不満として挙げられたものは、サービス等のソフト面より、蔵書の数や機器の性能等のハード面のものが多かったのは、今後の大学運営の上で十分に考慮する必要がある。

今回の調査を通じて、この種の資料と、学生の科目履修状況、入学者選抜時の資料、FK テストの点数の推移、中退・除籍者に関する資料等をリンクしたデータベースを構築し、学生のモニタリングを通じて脱落する可能性の黄色信号を早期に検出するような、教務・学生指導系を繋いだシステムの構築が可能であると考えに至った。